

立命館大学 機友会 第26回定時総会

哲学書を読む

田中 道七 先生

2017年10月22日（日） 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス ローム記念館5階 大会議室

立命館大学 機友会 第26回定時総会

人生にとって一番大切な学問は歴史と哲学である。

歴史とは過去から現在に生きてきた人間が自分自身を実験台にして行為し、失敗、成功を繰り返してきた実験データの集積であり、そこから法則性を導こうとするのが哲学である。

人類の最高の頭脳は何を考えてきたのか。
哲学書は難解である。

齢を重ね、人生の経験を積むにしたがってその内容はわかるようになる。

近世哲学の祖デカルト(1596―1650)

デカルトは「われ思う、故に我あり」によって主観が実在することを確認したが、客観が実在することを確認できなかった。彼はそれを神の實在から神が作った客観的なものは実在するとした。以後主観が先か客観が先か、鶏と卵のいずれが先かと同じ堂々巡りの議論に陥った。

フッサール(1859―1938)の現象論

フッサールは主観が五感を使って対象(客観)をどのように認識するかを調べ、主観が認める限りにおいて客観が存在するとした。

ハイデガー(1889―1976)存在と時間

「存在」とは何か。ハイデガーはこのテーマについてギリシヤのアリストテレスまでさかのぼって徹底的に究明したが回答は得られなかった。しかし彼は「人間の存在」について深く考察しそれは時間であると結論付けている。現在では「存在」そのものは定義できないとされている。

なお、日本の哲学者和辻哲郎、九鬼周造等はドイツに留学してハイデガーの講義を聞き、議論を行っている。

立命館大学 機友会 第26回定時総会

カント(1724-1804)の理性批判

理性は物事を論理的に考え、正しい結論に導く合理的認識能力であるが、経験の及ばないある種の問題に対しては自己矛盾に陥り、結論を見いだせない場合があることをカントが初めて示した。

その一つは神(絶対的必然的存在者)について、カントは神が存在することを論理的に証明すると同時に、神が存在しないことも論理的に証明できることを示した。このことはこの種の問題に対して理性の能力は及ばないことを示している(カントのアンチノミー(二律背反))。他の問題は「世界に始まりがあるかどうか」、「靈魂は不滅なりや否や」、「世界に自由による因果性があるか、それとも原因結果の系列により決まっているか」の三つである。

カントは敬虔なクリスチャンであった。

神の存在は論証できないことを示したカントは終生敬虔なクリスチャンであった。その根拠は「実践理性批判」に示されている。

人間は推論を行う理論理性に加えて道德律に基づき善を行おうとする実践理性を併せ持っている。しかし人間の持つ道德律は極めて不十分であり完璧な善には程遠く、それを高めるための努力を行っている。その到達目標は完全な道德律と善であり、それを有するのは神以外ない。このように実践理性の要請として神は存在する。

ヘーゲル(1770-1831)の歴史哲学

ヘーゲルの膨大な著作を読み通すのは大変であるが「彼の歴史哲学講義」は読みやすくまた面白い所がある。彼によれば世界史の本体は精神であり、歴史の各過程はその発展段階を示すものである。

立命館大学 機友会 第26回定時総会

特に中国、インドからエジプトまでの世界。ギリシャ世界。帝政前と帝政後のローマ世界。民族大移動時代と中世近世のゲルマン世界のそれぞれについて、鋭い観察による発展段階の評価は他の追随を許さないものがある。彼にとって最高の発展段階にある国とそれを構成する民族は当時のドイツ帝国とドイツ民族であるとの記述はいささか行き過ぎの感がある。

なお、世界史の中で最も長期にわたって繁栄したのはローマ帝国であり、アメリカの大統領と二院制からなる政体はローマの帝政をモデルにしたものであると言われる。

唯物史観と実存主義

十九世紀後半から二十世紀にかけての哲学の主流はマルクスに始まる唯物史観とキルケゴール、ハイデッガー、ヤス・パース、サルトルらによる実存主義であると言われる。

唯物史観は今後の社会の動きを考えるとときに重要になるが、社会的な意味ではマックス・ウェーバーの資本主義社会学を見ておく必要がある。

特に個人の生き方を考える場合は実存主義が参考になる。

従来の哲学が主題としてきたのは理性とか主観、客観といった人間共通の問題であったが、これに対して自分自身はどうなんだ、どうすればよいのかといった個の問題、個の在り方、個と個の関係を問うたのがキルケゴール（1813―1855）でそこから実存主義の議論が始まったとされる。

要は惰性で生きるのではなく、明日の自分は今日の自分とは違う。そこに必ず進歩がある。と言う自覚を持つことであろう。